

## 220. 一階常微分方程式ノ特異点ニ就テ, II

福原満洲雄(北大)

§1.  $f(x, y)$  が  $(0, 0)$  で正則で  $f'_y(0, 0) = \lambda \neq 0$  ならば, 一般 =

$$(a) \quad x \frac{dy}{dx} = f(x, y)$$

ノ解が  $x, Cx^\lambda$  ( $C$  は任意定数) ノ函数ト考へテ  $(0, 0)$  で正則トナルコトハ既ニヨク知ラレタ事柄ナル。此ノ古典

的+結果ヲ

$$(f) f(x, y) = f_0(x) + f_1(x)y + \dots + f_n(x)y^n + \dots$$

が  $0 < x < \delta, |y| < \Delta$  デ一様収斂テ,  $x \rightarrow +0$  ノトキ

$$(f_n) f_n(x) \sim f_{n_0} + f_{n_1}x + \dots + f_{n_m}x^m + \dots$$

ナル形 = 近似的 = 展開サレル場合 = 拡張シテ見ヨウ。先ヅ

$$(a) y \sim \alpha_1 x + \alpha_2 x^2 + \dots$$

が (a) ヲ形式的 = 満足スルマウ = 常数  $\alpha_1, \alpha_2, \dots$  ヲキメ

ル。若シ  $n$  が正ノ整数ヲナケレバ, ソノマウ =  $\alpha_1, \alpha_2, \dots$

ヲキメルコトが出来ル。而モソノマウナキメ方ハ唯一通りデア  
ル。

ソノ時 (a) ナル形 = 展開サレル (a) ノ解が唯一ツ存在ス  
ルコトハ例ノ論法デ証明サレル。若シ  $f(x, y)$  が  $x, y$  ノ  
正則ノ函数ナレバ, コノマウ = シテ得ラレタ解が  $x=0$  デ正  
則ノ函数デアルコトモ特別 = 証明スルホドノコトモナカラウ。

$n$  が正ノ整数  $n =$  等シイ場合 = ハ

$$y = \alpha_1 x + \dots + \alpha_{n-1} x^{n-1} + \alpha_n x^n$$

ト置ケバ前回 = 調べタ場合 = ナル。故 = コノ場合ハ考ヘナイ

(勿論逆 = 前回ノ場合ヲ今ノ場合 = 直スコトモ出来ル)

§2. (a) ナル形 = 展開サレル (a) ノ解ヲ  $\varphi_0(x)$  トシ  
勝手ノ  $C$  ノ値 = 對シテ形式的 =

$$(p) y \sim \varphi_0(x) + \varphi_1(x)Cx^\lambda + \dots + \varphi_n(x)(Cx^\lambda)^n + \dots$$

が (a) ヲ満足スルマウ =  $\varphi_j(x)$  ヲキメル。  $\varphi_n(x)$  ハ共積法

ヲ求メラレ,  $x \rightarrow +0$  ノ時

$$(\mathcal{P}_n) \quad \mathcal{P}_n(x) \sim \mathcal{P}_{n0} + \mathcal{P}_{n1}x + \dots + \mathcal{P}_{nj}x^j + \dots$$

ナル形 = 展開サレル。若シ  $f(x, y)$  が  $(x, y)$  の正則ナ函数ナラバ  $\mathcal{P}_n(x)$  モ  $x=0$  ナ正則ナ函数トナルコトハ注意スルマデモナイ。コトデ  $\lambda = \mu + i$  ノ実部  $\mu$  が正カ、0カ、負カ = 依テ三ツノ場合ヲ分ケル。

$\mu > 0$  此ノ場合 =  $\mathcal{P}$  が  $(a)$  ノ解ノ近似展開 = ナル。トイフ意味ハ  $x$  が十分 = 小サイ時

$$\left| y - [\mathcal{P}_0(x) + \dots + \mathcal{P}_{n-1}(x) (Cx^\lambda)^{n-1}] \right| < Kx^{n\mu}$$

ガ成立スルトイフコトデアル。証明ノ方法ハモウ々述ベル必要ハナカラシト思フ、結局

I. 勝手ナ  $C$  ノ値 = 對シテ  $(\mathcal{P})$  ナル形 = 展開サレル  $(a)$  ノ解ガ唯一ツ存在スル。

トイフ結論ヲ得ル、併シコレダケデ満足スルワケ = 行カナイ、更 = 進ンデ

II. 正ノ數  $\delta_1, \Delta_1$  が十分小サケレバ  $0 < x_0 < \delta_1$ ,  $|y(x_0)| < \Delta_1$  ヲ満足スル  $(a)$  ノ解ハ必ズ  $(\mathcal{P})$  ナル形 = 展開サレル。

コトガ証明サレル。ココマデハ級數  $(f)$  が收斂デアル必要ハナイ。近似的 =  $(f)$  が成立スレバヨイ、其ノ意味ハ正ノ整数  $n$  = 對シテ  $\delta', \Delta'$  ヲ十分 = 小サク取レバ  $0 < x < \delta'$ ,

$|y| < \Delta'$  ノ時

$$\left| f(x, y) - [f_0(x) + \dots + f_{n-1}(x) y^{n-1}] \right| < K|y|^n$$

が成立スルトイフコトデアル。

III. 級数  $(f)$  が一様収斂ナラバ級数  $(\varphi)$  も  $x=0$  の近傍で一様収斂トナル。

$x \rightarrow +0$  の時

$$\lim x^{-\lambda} [y - \varphi_0(x)] = \varphi_1(0) C$$

トナルコト = 注意シテ、補助変数ヲ含ム微分方程式 = 関スル定理ヲ使ハバ (a) の解が  $C$  の函数ト考ヘテ正則デアルトイフコトガワカル。ソレカラ III が得ラレル。補助変数ヲ含ム微分方程式 = 関シテハ、マタ別ノ機舎 = 触レテ見タイト思ツテキル。

此ノヤウナ方法 = 依ツテ進ンデ行クト、 $f(x, y) =$  関スル假定ガ (a) の解  $(\varphi) =$  ドウ影響シテ來ルカガ分レヌウ = 思フ。  $f(x, y)$  の近似展開 = 関シテ、モット別ナ假定ノ取り方モアリ、ソレ = 應ジテ  $(\varphi) =$  関スル結論ガ変ツテ來ルガ、コトデアハコレ以上深入リスルコトヲヨシテ置ク。

§3.  $\mu = 0$ . 此ノ場合 = ハ ( $\mu < 0$  デモ同様デアルガ)  $x \rightarrow +0$  のトキ  $x^\lambda \rightarrow 0$  トナラナイカラ、 $x$ ヲ實変数ト考ヘテ居ル限リ  $(\varphi)$  が近似展開 = ナレトイフコトハ意味ヲナサナイ。

從ツテ前節ノ論法ハコノ場合 = ハ使ヘナイ。ソコデ始メカラ  $(\varphi)$  が収斂トナル場合ヲ目標トシテ次ノヤウ = 考ヘル。

$$(a') \quad x \frac{dy}{dx} = f(0, y)$$

ノ解ヲ  $y = \psi(Cx^\lambda)$  デ表ハシ

$$z = y - \psi(Cx^\lambda)$$

ト置キ  $z$  が満足スル方程式ヲ

$$(b) \quad x \frac{dz}{dx} = g(x, Cx^\lambda, z)$$

ト書ク。  $g(x, Cx^\lambda, z)$  ヲ形式的 =  $Cx^\lambda$ ,  $z$  ノ冪級数 = 展開シタ結果ガ

$$0 < x < \delta, \quad |z| < \Delta$$

ノ一般収斂ヲアレヤ  $\dot{y} =$ , 更 =

$$\frac{f_1(x) - f_1(0)}{x} + \frac{f_2(x) - f_2(0)}{x} y + \dots$$

ノ一般収斂性ヲ假定スル。サウスレバ (b) ガ  $x \rightarrow +0$  ノトキ  $z \rightarrow 0$  デアレヤ  $\dot{y}$  ノ解ヲ唯一ツ持ツコトガ証明サレル。ソレハ  $C$  = 関係シテキル。コノデ補助変数ヲ含ム微分方程式 = 関スル定理ヲ使ヘバ

IV.  $x, |C|$  が十分 = 小サイトキ (a) ノ解ハ (g) ナル形 = 展開サレル (〜ハ = デ置換ヘル)

コトガ証明サレル, 従ツテ

V.  $\delta', \Delta'$  が十分 = 小サイトキ  $0 < x_0 < \delta', |y(x_0)| < \Delta'$  ヲ満足スル (a) ノ解ハ必ズ (g) ナル形 = 展開サレル。 (〜ハ = デ置換ヘル)

§4.  $\mu < 0$ . 此ノ場合 = (g) が収斂トナル場合ヲ捜ス (一般 = 収斂トハ限ラナイ) ノハ容易デナイシ, 大シテ重

要デモナイ。此ノ場合ニハ

VI. (a) ハ (x) ナル形ニ展開サレル解ヲ唯一ツ持ツ。  
其ノ他ノ解ハ  $(0 < x \leq x_0)$  デ存在スルナラバ  $x \rightarrow +0$   
ノトキ  $\lim |y(x)| \geq \Delta'$  トナルヤウナ正ノ数  $\Delta'$  が存在  
スル。

§5. 以上デハ  $x$  ヲ実変数トシタガ,  $x = re^{i\theta}$  が  
 $r = e^{m\theta}$  ( $m$  ハ或キマツタ實ノ常數) ナル曲線, 上ヲ動  
クトシテモ全ク同様デアル。

$\mu - \frac{\nu}{m} > 0$  ナラバ §2 =,  $\mu - \frac{\nu}{m} = 0$  ナラバ §3 =,

$\mu - \frac{\nu}{m} < 0$  ナラバ §4 = 相當スル結果が得ラレル。故ニ若

シ  $x = re^{i\theta}$  が動ク範圍ヲ

$$0 < r < \delta, m' \leq \frac{\log r}{\theta} \leq m''$$

トスルナラバ,  $m' \leq m \leq m''$  デアルヤウナ  $m$  ノ或値ニ  
對シテ

$$\mu - \frac{\nu}{m} \geq 0$$

トナリサヘスルバ級數  $(\varphi)$  ハ收斂トナル。  $f(x, y)$  が  
 $(0, 0)$  デ正則トイフ場合ハ  $m' = -\infty, m'' = +\infty$  デア  
ルカラ,  $(\varphi)$  ノ收斂性が余ラナイノハ入ガ負ノ實數トイフ場  
合ガケニナル。

コノヤウニ  $f(x, y)$  ノ展開ニ關スル假定ト, 級數  $(\varphi)$

ノ性質トノ間ノ關係ハ實ニ密接、明瞭ナノデアル。

従来ノ優級教ニヨル方法ハ手取り早イカモ知レナイガ、コノ  
ヤリナ現象マデ説明スルコトハ出来ナイカラ何トナク物足り  
ナサテ感ズル。